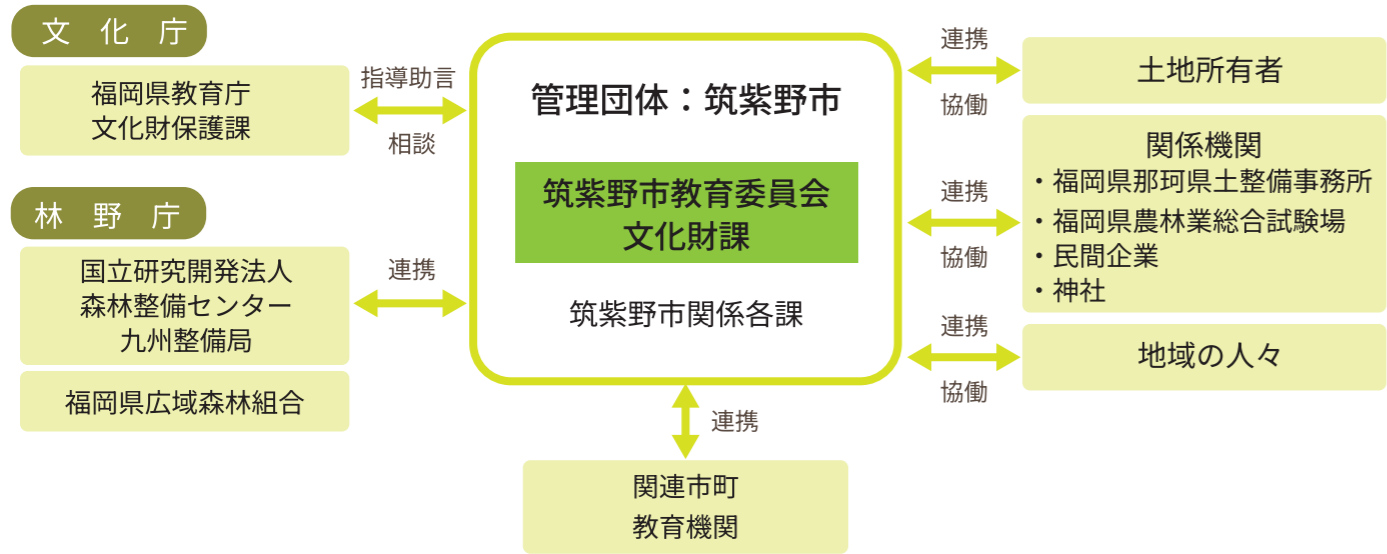


史跡阿志岐山城跡を保存活用する運営・体制

史跡阿志岐山城跡の保存活用は、管理団体である筑紫野市と関係者等のみなさんと、以下の体制で進めていきます。



史跡を守るためのルール

史跡指定地内で、下記のようなことを行う場合は、文化財保護法に基づく許可（国・市）が必要です。手続きには時間がかかりますので、下記のような行為を行う場合は、事前に筑紫野市教育委員会文化財課までご相談ください。



建築物や
工作物の設置・改修



土地の掘削や盛土



樹木の伐採や
植栽、植物の採取



イベントの開催

※ 樹木の剪定や枝打ち、地下遺構に影響のない日常的な農作業、清掃などは許可を要しません。

筑紫野市教育委員会 文化財課 TEL 092-921-8419

◆保存活用計画書の本編は、筑紫野市公式ホームページに公開しています。
筑紫野市公式 ホームページ / <https://www.city.chikushino.fukuoka.jp/>

◆史跡阿志岐山城跡についての参考文献

- 『阿志岐山城跡』筑紫野市文化財調査報告書第92集 筑紫野市教育委員会 平成20年(2008) / 市歴史博物館・市図書館で閲覧可能
- ちくしの散歩 107「阿志岐山城跡」 / 筑紫野市歴史博物館にて配布 (筑紫野市公式HPよりダウンロード可能)
- 『国史跡阿志岐山城跡』解説パンフレット / 筑紫野市歴史博物館にて配布



令和8年(2026)3月



史跡阿志岐山城跡 保存活用計画

概要版

筑紫野市 令和8年(2026)3月

第3水門

史跡阿志岐山城跡は、平成11年(1999)に筑紫野市の宮地岳(標高338.9m)の山中で発見された古代の山城です。山を城と見立て城壁で谷を囲む包谷式の山城で、谷をふさぐ石塁(水門)や尾根の傾斜にあわせてつくられた土塁が総延長約1.34kmにわたって確認されました。

本城は、特別史跡大宰府跡から東南東5km地点の東境界に位置し、古代大宰府に関連する重要な遺跡として、平成23年(2011)に国史跡に指定されています。

保存活用計画策定の目的

この計画は、史跡阿志岐山城跡の本質的価値を将来にわたって適切に保存し、その価値を広く知ってもらうためにつくりました。「保存管理」「調査・研究」「活用」「整備」「運営・体制」の5つの項目で、現状と課題を分析し、今後の取り組み方針と方法をまとめています。

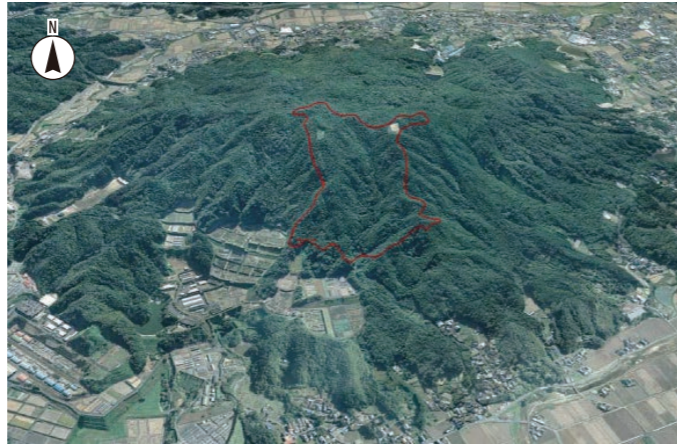
計画の期間と対象地

- ◆本計画の対象期間：令和8年度から令和17年度までの10年間
- ◆対象地：史跡指定地全体

史跡阿志岐山城跡の概要と3つの本質的価値

史跡阿志岐山城跡は、宮地岳の北西側の標高140mから250mの山腹に、城壁となる3つの水門と土塁がつくられています。山頂を含む南側は、急傾斜の自然の尾根を城壁に見立てて城の範囲としています。

この城壁や谷などの水系や土塁を支える丘陵斜面、城壁となる自然の尾根も古代山城として守る対象です。

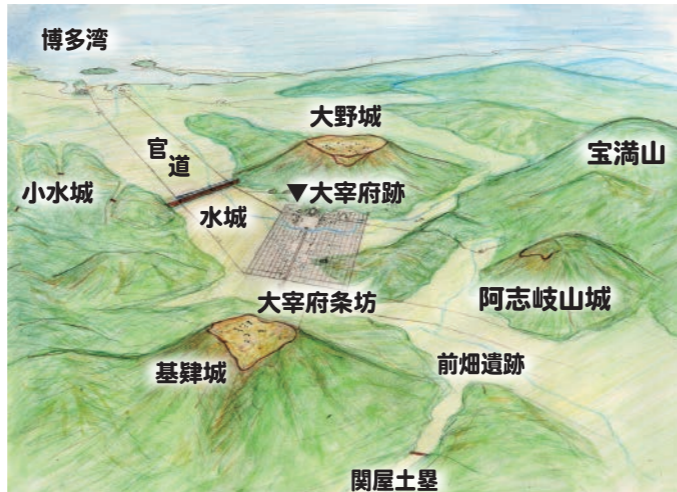


阿志岐山城跡全景（赤線が城壁部分）

価値 その1

我が国の古代の対外関係を考える上で重要な古代山城です。

養老4年（720）に完成したと伝わる歴史書『日本書紀』では、663年、倭（日本）と百済は、白村江の戦いで唐・新羅連合軍に大敗しました。唐・新羅が日本に攻めてくることに備えるために水城・大野城・基肆城などがつくられました。阿志岐山城跡は、これらと地理的に深いつながりがあるため、同じ目的でつくられたと考えられます。当時の東アジアの中での日本の対外関係を知るうえで重要な古代山城なのです。



（イラスト提供：太宰府市教育委員会）

価値 その2

古代大宰府における交通の要衝に配置された必要不可欠な防御施設です。

史跡阿志岐山城跡の北西側には、御笠の平野部が広がっています。東は豊前方面、北は福岡・糟屋方面、南西は筑後方面との交通の結節点でした。この平野部から城を見上げると、平野部に面して土塁や石塁（水門）がつくられている様子から、交通の結節点（要衝）を守るために配置された重要な防御施設として機能したものと考えられるのです。



遺跡と山との共存を考え、史跡を守っていきます。

- 山につくられた城として、山と共存していくことが大切です。そのための環境整備も進めていきます。
- 山の状況を知り、共存するための計画を有識者の助言を得ながら検討します。



視点場の設置イメージ（案）

見学ルートや土塁などが見やすい視点場を整備していきます。

- 遺跡の見どころが多い区域1-1について、定期的に見学ができるようにします。
- 安全に配慮した見学ルートを設定します。
- 土塁などが見やすい場所に視点場や解説板を設けます。



見学ルートの設置イメージ（案）

史跡の保存活用を進めていくために

史跡阿志岐山城跡を未来に伝え、広く親んでもらえるように、よりよい取り組みを育んでいきます。関係者等のみなさまのご理解とご協力をよろしくおねがいします。



筑紫野市
マスコット
キャラクター

つくしちゃん



第12地点



第1水門

史跡阿志岐山城跡の魅力
を広く伝えます。

史跡阿志岐山城跡の価値や魅力を
広く伝えるため、継続的に取り組みを
進めています。



ガイドスコーナーの設置イメージ (案)

- 史跡の魅力を伝えるための見学会等の企画
- 常設のガイドスコーナーの設置
- 生涯学習や教育分野と連携した活用
(こども向けパンフレットの作成など)
- 関連する古代遺跡や山城と連携した活用
- 市内の観光と連携した活用

史跡阿志岐山城跡の一般公開は
安全上行っておりません。
定期的な見学会開催を予定しています。
開催情報は、
筑紫野市公式サイトや
広報等でお知らせします。



むさし



第3水門

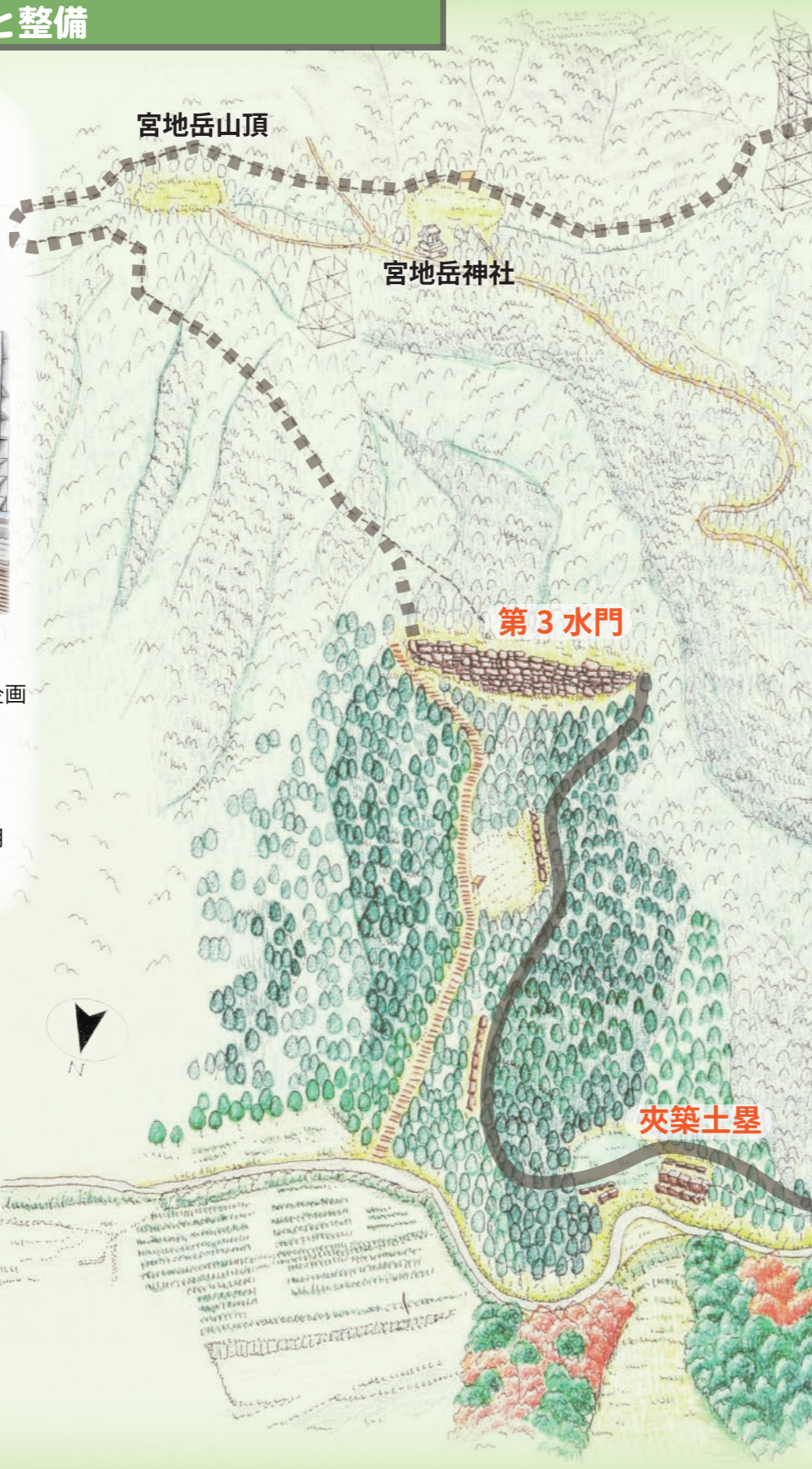
きょうちくどらい
夾築土塁の周辺には、
門跡がある可能性もあり、
今後の注目ポイントです。



夾築土塁



第2水門



価値
その3

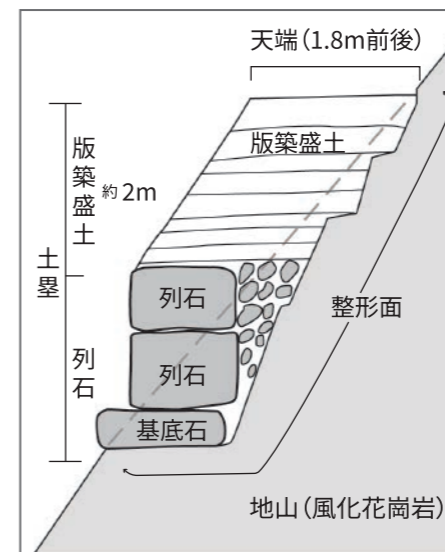
他に類をみない独自の築城技術でつくられた国内唯一の古代山城です。

史跡阿志岐山城跡の土塁は、外面最下部に「基底石」といわれる平らな石を並べる工法を国内で唯一採用しています。この基底石の上には、大きな列石を2段積み、その上に砂と粘土を数十層も積み上げた版築盛土をしています。盛土は高さ約2mにもなります。谷部には、巨石を加工して上下左右を立体的に組み上げた石塁（水門）があります。

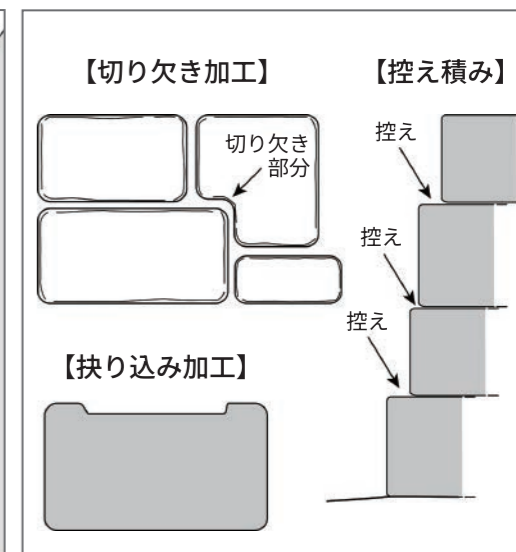
九州の古代山城では、土塁の延伸方向が曲線状ですが、史跡阿志岐山城跡は瀬戸内地域にある古代山城のように直線と折れ構造の特徴を持っています。史跡阿志岐山城跡は、九州にありながら瀬戸内地域の古代山城の特徴を合わせ持つ、独自の築造技術でつくられた他に例をみない国内唯一の古代山城なのです。



土塁 (横から)



土塁断面の模式図



阿志岐山城跡にみられる
石材の加工や積み方



土塁をたち割った内部の状態 (上から)



第12地点 (赤線：折れ構造)

大綱

未来へ守り育む 古代の文化遺産 阿志岐山城跡

史跡阿志岐山城跡の保存活用計画では、史跡の本質的価値を損なうことなく保存し、未来へ伝えていくことが最も重要です。将来的に、史跡の本質的価値はこれからも発掘調査を続けることで深まります。また、史跡の保存活用の方法について、関係者や地域の方々とともにより良い方向へと形作っていくような取り組みを行っていきます。

基本方針

これからの具体的な取り組み内容

- 1. 保存管理**
 史跡の本質的価値を構成する要素を確実に守るために区域ごとの適切な保存管理を行います。
 - 区域の特性に合わせた保存管理
 - 現状変更等の取扱い
 - 追加指定と公有化
 - 文化財の危険個所の対応
 - 保存管理に関わる環境調査 など
- 2. 調査・研究**
 史跡の本質的価値をさらに把握するために発掘調査などの継続的な調査・研究を実施します。
 - 考古学・歴史学・歴史地理学・土木工学・建築学的な視点での総合的な調査・研究
 - 調査・研究成果の公開 など
- 3. 活用**
 史跡の本質的価値を広く伝えるため、教育分野などと連携して、多様な活用を推進します。
 - 常設で学べる場所の設置
 - 史跡の段階的な公開
 - 多様な方法で情報発信
 - 生涯学習や教育分野、地域と連携した活用
 - 観光と連携した活用 など
- 4. 整備**
 「保存管理のための整備」と「活用のための整備」を長期的な視野で行います。
 - 保存管理のための環境や管理用道路等の整備
 - 活用のための見学ルート等の整備 など
- 5. 運営・体制**
 管理団体や土地所有者、関係機関等が連携して適切な運営を行う体制を整備します。
 - 保存活用の体制の強化
 - 関係者等との連携体制の整備 など

史跡阿志岐山城跡は広大であるため、調査成果や地形などの条件で区域分けを行い、その区域ごとの現状や課題に合わせた保存活用を行います。

- 区域1** 古代山城の本質的価値の中心となる城壁
- 区域2** 土塁・石塁（水門）・土塁線推定ラインに囲まれた範囲（城内）
- 区域3** 土塁・石塁（水門）・土塁線推定ラインの城壁外側から史跡指定地の境までの範囲

区域ごとの管理方針 保存管理では、区域ごとに管理方法や現状変更取扱いの基準を定め、関係者や地域の協力のもと巡視などを行い、史跡を守ります。

	区域1-1	区域1-2	区域1-3	区域2	区域3
本質的価値を構成する要素	土塁・石塁（水門）等の遺構 埋蔵されている可能性がある遺構 谷などの水系 遺構と一体的な自然地形		埋蔵されている可能性がある遺構 谷などの水系 遺構と一体的な自然地形		
管理内容	<ul style="list-style-type: none"> ■年に1回以上、定期的な巡視と荒天後の巡視と遺構の確認、応急処置 ■遺構に影響がある樹木の整理や枝打ち等を実施 		<ul style="list-style-type: none"> ■年1回程度の巡視と荒天後の巡視と遺構の確認 ■管理のための枝打ち等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■甚大な自然災害後に状況に応じた巡視と確認 ■管理のための枝打ち等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■必要に応じて可能な範囲で確認

区域ごとの調査内容 調査・研究では、区域ごとに必要な調査項目に優先順位をつけ、継続的に取り組みます。

